

# 放射線科 専門研修プログラム

## ◆ プログラムについて

基幹施設：名古屋大学医学部附属病院

名古屋市立大学医学部附属病院

(日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院は連携施設として研修を実施します。)

※プログラム内容の詳細は、当院ホームページよりご覧下さい。

## ◆ 専攻医の処遇

・身分：専攻医（常勤嘱託）

・給与：3年次 基本給 290,300 円＋諸手当（地域手当、医師確保調整手当等）

4年次 基本給 305,800 円＋諸手当（地域手当、医師確保調整手当等）

5年次 基本給 320,100 円＋諸手当（地域手当、医師確保調整手当等）

・他施設で研修する場合の雇用条件は、それぞれの研修施設の給与、社会保障、労働条件による。退職金等は、退職時の施設基準に従う。雇用にかかわる住宅、交通などの条件は、当該研修施設の基準に従う。

## ◆ 当院における研修環境

当院は 852 床の急性期地域基幹病院で、放射線科は診断科と治療科が独立して診療を行なっています。現在、診断科には常勤 4 名（全員が放射線科診断専門医）、治療科には常勤 2 名（全員が放射線治療専門医）のスタッフが所属しています。

診断科では、主に CT, MRI, PET を含む核医学検査の読影業務を行っており、これらの検査を用いた画像診断の研修が可能です。専攻医は、スタッフの指導下で画像を読影してレポートを作成するとともに、他科とのカンファレンスに参加して、画像診断の基礎を学ぶことができます。いずれの検査も最新の診断装置が装備されており、最新の検査方法について習得することが可能です。IVR に関しては、希望により基幹施設で研修することを検討します。

治療科では 2 台の外照射治療装置を用いて、定位照射や IMRT などの高精度放射線治療を含む、毎日 50 人前後の患者さんの治療を行なっています。放射線治療医は、放射線治療の依頼をいただいた患者さんの診察を行ない、身体所見や画像所見を参照したうえで治療の適応の決定、治療方針の検討、治療計画コンピュータを用いた治療計画作成などが主たる業務になります。専攻医はスタッフの指導の下で外来を担当し、業務や毎日のカンファレンスを通じて、放射線治療の基本である種々の外照射を多数経験し、理解を深めることができます。

専攻医は 3 年間の後期研修期間に診断と治療の両者を学び放射線科専門医の取得を目指しますが、少なくとも 1 年間は基幹施設で研修する必要があります。当院と基幹施設での研修の時期や期間、研修内容の比重については、その後のサブスペシャリティとして診断、治療のいずれを希望するかにより相談して決めることになります。

お問合せ先

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 教育研修管理課

TEL：052-481-5111 E-mail：kensyu-jimukyoku@nagoya-1st.jrc.or.jp